

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 1	安全・安心まちづくり推進事業	新規	平成22年度	地域振興課

1 事業概要

事業実施主体	地域振興課		対象者	安全・安心まちづくり 関係団体		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()		関連事業局 ・事業内容	市民・こども局 安全・安心まちづくり事業		
目的及び内容	<p>区民や町内会などの地域団体と行政機関等の連携と協働により、区民が安全で安心して暮らせるまちづくりを進めることを目的とし、防犯の専門家による防犯講演会の開催などにより、行政と地域の連携強化、地域の防犯力及び防犯意識の向上を図り、区内の街頭犯罪を抑制する。</p> <p>さらに、当該地域団体に対してパトロール用の防犯ベストや自動車に装備し使用する青色回転灯などを貸与して地域防犯活動を支援する。</p>					
予算額	147,000(円)	決算額	27,880(円)	不用額	119,120(円)	
不用の理由	講師依頼料が安価であり、会場使用料が無償であったこと、また予定講師と日程不調などにより講演会計画を断念したことなどから関連経費に不用が生じたため					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		<p>中原区民祭における防犯啓発活動をはじめ、年末の防犯・防火キャンペーンなどを実施した。研修会（講演会）では、繁華街等での防犯に実績を有するNPO団体を講師に招き、実践的な内容の講義を受け各地域での防犯活動手法の参考とした。</p> <p>昨年度は、地域団体に対してパトロール用ベスト69着を貸し出し、地域防犯活動を支援した。</p> <p>また、市と連携した地域防犯活動の支援では、5月10日に上丸子小学校が地域防犯活動拠点として選定され、防犯パトロールや児童の見守り活動の推進と情報交換の場となっている（犯罪抑止効果のある青色回転灯も同時に設置）。</p>			
			実施時期 (開催日/回数等)	通年 (2月24日研修会)	参加 人数等	99人
		研修会の様子				

2 事業評価

評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること）
<p>行政単独ではカバーしきれない地域防犯活動の実施、活性化を図ることにより、犯罪被害を減少させ、安全で安心して暮らせるまちづくりに確実に貢献していると考えます。</p> <p>平成22年の区内における刑法犯罪認知件数は、前年に比べて微減であったものの、平成20年から3年連続で減少していることから、一定の犯罪抑止効果はあったと思われる。</p> <p>平成22年 犯罪認知件数 2551件（対前年 30件〔1.2%〕） 「県警本部生活安全部データから」</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	<p>防犯に対する関心が地域だけではなく、個人でも高まっていることから、子どもから高齢者まで、更には新たに転入してくる人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、講演会などを継続して開催する。</p> <p>今年度から新たな取り組みとして、「子ども向け」「高齢者向け」など、年齢層別に防犯用の啓発冊子を作成・配布し、防犯力及び防犯意識の向上を図り、安全で安心して暮らせるまちづくり推進事業を実施する。</p>	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 2	中原区ガイドブック（安心ブック）作成事業	継続	平成17年度	企画課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所	対象者	区民	当初予定事業 緊急対応事業	
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容	なし		
目的及び内容	安全安心のまちづくりを推進するため、区の概要や公共施設、医療機関、防災拠点などを掲載した「中原区ガイドブック」を2万5千部作成し、区民課窓口をはじめとする、区役所各窓口で配布する。なお、転入セットに封入することにより、全員に配布する。				
予算額	1,838,000(円)	決算額	813,750(円)	不用額	1,024,250(円)
不用の理由	入札の結果、入札額が当初予算額を大幅に下回ったため。				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】  (作成したガイドブック)		区民の要望や区民会議での指摘を踏まえ、平成22年度はA1判で作成した。計25,000部作成し、転入者の転入セットに封入し配布するとともに、区役所窓口で配布することにより、中原区について知ってもらう機会を提供した。		
	実施時期 (開催日/回数等)	平成23年3月	参加 人数等		

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
転入者などへ、区の概要や、公共施設、医療機関、防災拠点を案内する、ガイドブックを作成し、配布する事は評価できる。また、今年度は大判の地図を作成することで、視認性を高めた。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	より見やすく、使いやすいガイドブックとする為、形状を見直し、継続する。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 3	案内サイン情報更新事業	新規	平成22年度	企画課

1 事業概要

事業実施主体	企画課		対象者	当初予定事業 緊急対応事業	
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容	まちづくり局		
目的及び内容	<p>武蔵小杉駅周辺の再開発事業により武蔵小杉駅、武蔵中原駅、新丸子駅周辺に設置した既存の案内サインの地図面・案内表示文字が現状にそぐわないものになっている。再開発の進捗にあわせて最新の地図面に更新し、中原区に足を運ばれた人々の利便性を向上させることを目的とする。</p> <p>武蔵小杉駅周辺に設置されている案内サイン14基の地図面及び文字表示を修正するため、データ作成・製作・施行を事業者にも業務委託する。</p>				
予算額	1,390,000(円)	決算額	1,281,000(円)	不用額	109,000(円)
不用の理由	指名競争入札による入札差金が生じたため				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		<p>当事業により、案内サイン14基(平成15年度に設置された3基、平成16年度の6基、平成19年度の4基、平成21年度の1基)の地図面・案内文字情報が平成22年度10月現在に更新された。</p> <p>「JR武蔵小杉駅(新南改札口)」「AEDマーク」「避難所マーク」等を新たに追加するとともに、既に移設が行われている「中原消防署」「市民館・かわさき市民活動センター」等の位置を修正した。</p>		
	 <p>更新作業の様子</p>		実施時期 (開催日/回数等)	10月28日工事完了	参加 人数等

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>武蔵小杉駅周辺は近年の再開発により、年々まちの移り変わりが激しい。駅を訪れる人々にとって案内サインの地図面・文字情報の更新は必要不可欠なものとなっており、各年度まちの変化に合わせ、案内サインの更新を継続的に行う必要がある。また、区民や駅を訪れる人々の声を聞き、必要な情報を加えたり、見やすくわかりやすい案内サインに更新していく必要がある。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	平成22年度は27基中14基と多数の案内サインの更新を行ったので、平成23年度からは再開発の進捗状況等をふまえ、既存の案内サインについて、部分的な修正を加えていく。また、新たな案内サインの必要性についても検討し、局と連携して新設も検討していく。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 1	橋わたしによる地域福祉の活性化事業	継続	平成19年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	地域保健福祉課		対象者	中原区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容	まちづくり局			
目的及び内容	第3期中原区地域福祉計画では、『福祉のこころ、人と人との橋わたしで、支え合える地域づくり』を基本理念とし、重点多岐な取り組みを位置付けている。本事業内で、これらの事業を推進することで、同計画の基本目標である『1 思いやりや支え合いのこころが育つ地域の意識づくり』『2 人と人をつなぐ出会いの場づくり』『3 ボランティアがいきいきと活動できる支援体制の充実』『4 地域と行政の連携による活動支援と地域のネットワークづくり』の実現を目指す。					
予算額	608,000(円)	決算額	554,484(円)	不用額	53,516(円)	
不用の理由	印刷物をリソグラフで作成し経費を縮減した。					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】  ワークショップ  地域福祉講座	<p>まちなか講座：衛生課主催の講習会参加者及び理容業の加盟団体を対象に講座を計6回開催した。</p> <p>地域福祉講座：福祉事業、ボランティア養成事業を公募し、5事業を選定し、事業委託した。ボランティア養成(1事業)、スキルアップ講座(1事業)、活動のPRと交流を兼ねたイベント(1事業)及び普及啓発講座(2事業)延べ約900名が参加。</p> <p>小杉駅周辺での啓発活動：4棟2,600世帯に対して、地域福祉、献血、福祉健康まつり関連資料を配布した。地域福祉・民生委員の住民説明会を3回実施した。NPO エリアマネジメント、各マンション理事会と協働して、民生委員、児童委員の選任を行い2棟から合計3名を選出した。</p>				
	実施時期 (開催日/回数等)	平成22年度中	参加 人数等	上記のとおり		

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>まちなか講座は、参加者1人1人が健康への関心を再認識できるよう、分かりやすい資料や具体例で示すことにより、健康の重要性を伝えることができた。</p> <p>地域福祉講座は、5事業の募集に対し、5事業の応募があった。区民が事業を企画・運営することで多くの参加を得ることができ、地域のニーズに沿った支援が行えた。より多くの団体に講座を活用してもらい、様々な地域で活動の活性化に利用してもらえよう事業のPRについて検討が必要。</p> <p>武蔵小杉駅周辺地域等の啓発活動については、2,600世帯に関連資料の配布。福祉ボランティアの機運が広がるような働きかけや関係機関と連携を図り、地域福祉の担い手である民生委員児童委員を住民の中から3名選出することが出来た。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	23年度は第3期地域福祉計画3か年の初年度であり、この計画を推進するための事業展開を図っていく。また、ワークショップの充実を図り、区民ニーズの把握に努め、地域の実情に合った交流の場の創設に向けて取り組んでいく。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成 2 2 年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番 号	事 業 名	新規・継続	開始年度	所管課
- 2	なかはら福祉健康まつり	継続	平成 11 年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	なかはら福祉健康まつり実行委員会		対象者	中原区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他 ()	関連事業局 ・事業内容	なし			
目的及び内容	「であい、ふれあい、ささえあい」をテーマに、区内で福祉や健康に関わる活動をしている団体やボランティアなど約 5 0 団体が参加して、日頃の活動の発表や展示、体験型イベントを通じ、区民に福祉や健康への理解を深めてもらうとともに、参加団体の交流の場として実施する。					
予算額	1,200,000 (円)	決算額	1,200,000 (円)	不用額	0 (円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		地域の福祉・健康団体が日頃行っている活動の発表の場として、まつりを実施した。各種健康体操の実演、手話ダンス、作品展示販売、物忘れチェックテスト、食材つりゲーム、栄養バランス試食コーナー等、区民が直接楽しみながら体験できる様々なイベントを取り入れ、福祉や健康に対する具体的な理解に役立つことができた。また、区民や各福祉団体間の交流を図ることができた。			
	福祉健康まつりの様子		実施時期 (開催日/回数等)	平成 22 年 11 月 20 日	参加 人数等	1,350 人

2 事業評価

評価の結果と理由 (緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
区民参加型のイベントとして、地域で活動している福祉や健康に関する団体が主体となって実施している。活動を広く市民に知ってもらうことにより、健康づくりや福祉に関心を持ち、理解を深めてもらう機会とすることができた。また、高齢者、障害者、健康づくりに関わる様々な団体が、福祉健康まつりを通じ、交流を図る機会となっており、地域活動のネットワークづくりに貢献することができた。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	平成 23 年 2 月の実行委員会(反省会)では、各団体から次回の開催に向け修正するところや新たに準備が必要など、意見交換がなされた。それを元に平成 23 年の実行委員会では改善の上継続していく方向である。	B

優先度が：A 非常に高い、B 高い、C 高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 3	なかはらパンジー体操事業	新規	平成22年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	地域保健福祉課		対象者	地域に暮らす高齢者		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営	一部委託	全部委託	その他()	関連事業局 ・事業内容	
目的及び内容	<p>中原区においても高齢化が進み要介護・要支援高齢者が増え、認知症に関する相談が増加している。これらを予防するには、生活機能を維持して外出や社会的な交流を促進することが重要となる。高齢者が健やかに生活して、支え合える地域づくりを目的に実施する。 区民が身近に体操をできる機会を増やし、区民との協働により地域において介護予防活動を推進する。</p>					
予算額	1,173,000(円)	決算額	1,167,160(円)	不用額	5,840(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】					
	 <p>福祉健康まつりで体操を披露</p>		<p>中原区地域包括支援センターおよび健康運動指導士と共に、なかはらパンジー体操を作成した。区民が親しみを持てるように「なかはらパンジー体操」を名称とし、川崎で活躍しているアーティスト(スタイルスリー)の楽曲を使用。区民ボランティア30名を公募し、なかはらパンジー隊として区内で普及活動を実施した。また、多くの区民が体操できる機会を持てるように、DVD100枚・VHS60個・リーフレット1,500部作成し、普及活動と併せて配布を開始する。</p>			
	実施時期 (開催日/ 回数等)	ボランティア養成講座 7~11月に計11回 普及実施回数 17回	参加 人数等	ボランティア養成講座 計28人 のべ264人 活動場所における参加者 のべ約495人		

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>当初、高齢者にとっては体操動作が難しいのではという懸念もあったが、参加者の反応は「リズムに合わせて楽しく動くことができた。」「続けて行ってきたい。」と概ね好評であった。地域の町会・老人クラブ・介護予防自主グループ等より月平均10か所ほど要望があり、体操をきっかけとした交流が図られることで地域づくりにも寄与していると思われる。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	平成23年度は、新たな区民ボランティアを公募。養成講座修了後は、平成22年度に養成したボランティアとともに、普及啓発に努めていく。また、既存ボランティアに対しては、継続した活動支援を目的としてフォーローク講座を実施していく。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 1	働いている妊婦への支援事業	継続	平成20年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	かわさき助産師ネットワーク SUN ²		対象者	働きながら子育てをする 予定の妊婦とパートナー	当初予定事業 緊急対応事業	
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他 ()	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	<p><目的> 就労女性の増加に伴い、仕事と家庭生活の両立に関心が高まると同時に、不安を抱える人も増えていることから、対象者の不安を軽減し心の準備ができるようにする。そして夫婦が協力し合って仕事と子育てや家庭生活を営むワークライフバランスのイメージが持てるようにする。</p> <p><内容> 妊娠・出産・子育ての知恵（講話） 子育て支援情報紹介 先輩ママ・パパとの交流 保育施設の紹介や認可保育園入所案内 体験コーナー（赤ちゃんお着替え・スリング・妊婦体験等）</p>					
予算額	221,000(円)	決算額	167,571(円)	不用額	53,429(円)	
不用の理由	東日本大震災の影響により、1回を中止としたため。					
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>(先輩ママ・パパの交流)</p>	<p>土曜日に区役所五階会議室において実施した。3回の参加妊婦の合計146人、パートナー130人、先輩親子等49人であった。</p> <p>参加者の関心事は 保育園 出産・育児 先輩ママ・パパの体験談が多かった。</p> <p>内容についてはどの項目も「大変良い」「良い」が8割を占め、「二人で参加できて良かった」、「参考になった」、「充実していた」など概ね好評であった。</p> <p>当日の運営は、かわさき助産師ネットワーク SUN² のメンバーが中心となり、保健福祉センター、関東労災病院看護職が協力し円滑に実施できた。</p>	実施時期 (開催日/回数等)	H22.6/26、9/26、12/12 (計3回)	参加 人数等	325人

2 事業評価

<p>評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日開催により、参加者の86%がパートナーとともに参加し、2人で出産後の生活への心構えができた満足度は高かった。また参加者の68%が平日実施の両親学級に参加していなかったことから、平日の両親学級の補完ができた。 ・毎回男女とも保育施設についての関心が高く、待機児数や保育園に入所できるかどうか等、切実なニーズがあった。 ・乳幼児健診に来所した人に「先輩ママ・パパ」としての参加を募り協力を得た。先輩に保育園のことや日常生活の様子を聞き、これからの生活へのイメージ作りに役立てていた。また、先輩ママ・パパも楽しく参加し、市民参加型の事業として展開できた。2年目となり3者の協働事業としてチームワーク良く運営実施した。
--

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	<p>昨年の反省を活かし、先輩ママ・パパの参加者数を増やし、参加者が車座になって体験談を聞き交流できたことは参加者のニーズに合っていた。各内容の時間配分を再検討し、参加者同士の交流、先輩ママ・パパ同士の交流も行い、継続して参加してもらえる仕組みを作っていく。</p>	B

区民会議からの主な意見

--

平成 22 年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 2	多胎児育児支援事業	継続	平成 18 年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所		対象者	中原区在住の多胎児を持つ親及び多胎児育児に関心のある区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他 ()	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	<p>多胎児の育児は、精神的・身体的・経済的負担が大きく、虐待のリスクが高いと言われている。また妊娠前から情報が少なく育児も孤立しやすい。中原区は多胎児の出生が年間約 30～40 組と多いことから、ボランティアと協働し、多胎児家族が交流できる場を定着させ、多胎児家族の相互支援を目指すために以下の支援を行う。</p> <p>交流会の開催、多胎児育児の情報提供としてピーナッツ通信を発行、ボランティアグループ「ピーナッツ」の定例会を毎月開催、ツインキッズOBママ交流会の開催、ボランティアグループ強化のため研修会を実施</p>					
予算額	354,000 (円)	決算額	282,702 (円)	不用額	71,298 (円)	
不用の理由	東日本大震災の影響で、ボランティアグループの研修会や交流会が中止となったため。					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		<p>区内 3 会場での交流会の実施</p> <p>エポックなかはら 9月17日 10組(31人)</p> <p>下沼部町内会館 11月19日 6組(18人)</p> <p>国際交流センター 12月17日 8組(24人)</p> <p>ピーナッツ通信 120 世帯に郵送</p> <p>「ピーナッツ」の活動支援及び交流会の企画・運営 (通年 参加者実数 13 名 延べ 83 名)</p> <p>ツインキッズ開催と併せて OB ママ交流会を年 3 回実施。就園後の OB ママ 3 名とピーナッツの OB ママ 10 名の参加があった。</p> <p>多胎児サポートネットワーク代表による研修会を予定していたが、震災の影響により中止とした。</p>			
	 <p>(エポックなかはら交流会)</p>		実施時期 (開催日/回数等)	上記記載	参加 人数等	上記記載

2 事業評価

評価の結果と理由 (緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>交流会では、先輩双子ママが進行を行い、様々な体験談を語り合うことで、ピアサポートの機能をとることが出来た。多胎児の保護者が住む、身近な地域での会場で開催したこともあり、今までツインキッズなど交流の場に参加できなかった母子の参加が認められ、また妊婦も含めた交流が行えた。また、OB ママ交流会を実施したことで、就園後の児を持つ保護者と、多胎児育児支援の必要性を確認し、ピーナッツの活動を PR する良い機会となった。</p> <p>孤立しやすい多胎児家族に向け、ボランティアグループ「ピーナッツ」の紹介とともに交流会や多胎児育児中の親子の様子を伝える「ピーナッツ通信」を発行。保健福祉センターに来所できない多胎児家族にも支援があることを PR できた。</p>

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	<p>ボランティアを中心に交流会を実施、多胎児育児支援の実績を積み、区民の中でも定着してきている。今後、母体となる「ピーナッツ」の組織強化のため、新たなボランティアの発掘や多胎児育児経験者のボランティアの参加など各機関等との連携を検討していく予定。また、参加できない家族へ活動の PR を行い、参加意欲を促し、エンパワメントの向上を目指す。</p>	B

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 3	乳幼児ふれあい事業	継続	平成19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所		対象者	乳幼児健診来所の親子		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()		関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	<p>中原区は大規模開発等により、乳幼児数、転入者が増加しており、地域の子育て情報に対する需要が高い。また、乳幼児健診の受診者数も増加している。乳幼児健診の来所の機会、待ち時間を利用し、子育て情報の提供するための子育てアドバイザーの設置、親子ふれあいを促進し健診の待ち時間を楽しく安全に過ごすための「にこにこコーナー」を開設する。また、子育てに理解のある子育てボランティアとともに事業を実施する。</p>					
予算額	1,219,000(円)	決算額	1,198,840(円)	不用額	20,160(円)	
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>にこにこコーナー 保育士による親子遊び</p>		<p>すべての健診の待ち時間の機会を利用して、専門職による子育て情報や、地域の子育て情報の提供を行うことができた。また、待ち時間を楽しく安全に過ごすための保育士による遊びのスペースであるにこにこコーナーや、ボランティアによる見守りがあることで健診を安心して受けてもらう環境づくりをすることができた。ほとんどの親子が利用し、専門職による親子遊びの方法についてのヒントが得られた、「おもちゃで楽しく過ごせてよかった」等の評価が参加者より得られた。</p>			
	実施時期 (開催日/回数等)	平成22年度通年	参加 人数等	年間108回実施		

2 事業評価

<p>評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)</p> <p>健診の待ち時間を利用して、専門職による子育て相談や情報提供、ふれあい遊びなどを提供すること、更に健診の機会を有効に活用することができ、楽しく安全に健診受けるために重要で必要不可欠な場となっている。ボランティアの存在も地域の子育て支援を行うためにも重要である。今後も、引き続き乳幼児の増加、転入者の増加は考えられるため、優先的に取り組むべき事業である。</p>

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	健診時に必要で有効な事業となっている。今後も、引き続き、乳幼児の増加、転入者の増加が考えられるため、子育て情報に対する需要も引き続き高く、健診者の受診者数の増加も見込まれるため継続実施し、内容の検討等を行っていく。	B

区民会議からの主な意見

--

平成 22 年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番 号	事 業 名	新規・継続	開始年度	所管課
- 4	中原区子育てネットワーク事業	継続	平成 18 年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	中原区子育てネットワーク		対象者	区内の子育てに関わる関係機関、団体		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他 ()	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	子育てに関わる団体・関係機関等が子育てに関する課題を共有し、課題解決にむけた支援をおこなうため、子育てネットワーク会議を年 4 回開催。子育てネットワーク会議では、情報交換やネットワーク事業の進行管理を行うと共に、全体事業としてマタニティ&ファミリーコンサート、親子交流事業、子ども未来フェスタを開催した。また、部会を設置し、子ネット通信部会では、タイムリーな子育て情報の発信、ボランティア部会では研修、自主グループ支援部会では自主グループリーダー交流会を行う等、活発に活動した。					
予算額	3,232,000(円)	決算額	3,231,226(円)	不用額	774(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		全体事業として、マタニティ&ファミリーコンサートを 12 月に実施し、750 名の参加を得た。また、父親向けを含む親子講座を計 13 回開催し、親子 75 組が参加した。子ネット通信部会では、子育て中の母親が中心となり年 12 回の編集会議を開き、隔月で「子ネット通信」を 8,000 部/回発行した。自主グループ支援部会では自主グループリーダー交流会を 3 回開催し、計 180 名が参加した。子育てボランティア部会では、ボランティア研修を 2 回開催し、43 名が参加した。また、子どもネットワークと協働し、子ども未来フェスタを開催し、区民 2500 人が参加した。			
	子ども未来フェスタ		実施時期 (開催日/回数等)	上記のとおり	参加 人数等	上記のとおり

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>地域で活動している子育てに関係する自主グループや、ボランティアグループ等と行政機関、公共的活動を行う団体などが集い、地域の子育てを支援していくという共通認識の下に、情報交流を行い、連携を深め、子育て支援事業を実施した。</p> <p>「子ども未来フェスタ」については、実行委員会等を通じて、また「マタニティ&ファミリーコンサート」については子育てネットワーク全体で実施し、ネットワークの参加者同士の交流を図りながら、ネットワークとしての役割を発揮した。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	参加団体等の活動の実践を積み上げ、地域課題を共有すると共に、区民と協働して事業実施を図る。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 5	中原区子ども支援ネットワーク事業	継続	平成18年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	中原区子ども支援ネットワーク		対象者	区内の学齢期の子どもと保護者、子どもに関わる関係機関、団体		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	地域全体で子どもが抱えている課題を共有し、課題解決にむけた支援をおこなうため、学齢児童の子ども支援ネットワーク会議を年3回(3回目は東日本大震災のため中止)開催した。地域の素敵な大人と連携した「中原区子どものあり方・生き方プロジェクト」や「中原区中高生プロジェクト」の実施、子どもネットワークのホームページ「なかはらっこ」による情報発信について取組んだ。					
予算額	587,000(円)	決算額	548,776(円)	不用額	38,224(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		「あり方・生き方プロジェクト」では、地域の素敵な大人に出会う活動として昨年に引き続きプロのダンサーによる指導を受け、2校の小学校の児童約80名が合同で11/27(土)の「中原こども未来フェスタ」と翌年1/31(月)の区の音楽イベント「InUnity2011」でダンスの成果を披露した。 中高生プロジェクトでは、5校の美術部34名の中学生が、自分たちが描いたポスターの掲示やポスターの柄のティッシュを配りマナーアップ活動を行った。また、高校生が商店街のイベントや小学校に出向き、区民と交流し区の活性化に貢献した。			
	「InUnity2011」ステージ風景		実施時期 (開催日/回数等)	上記のとおり	参加 人数等	上記のとおり

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
地域で活動している自主グループやボランティアグループ等と行政機関、公共的活動を行う団体などがネットワークとして集まり、地域の子どもの支援していくという共通認識の下に各関係機関・団体が活動状況等の情報交換をしながら、活動を実施し、連携を深めることができた。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	関係機関や団体が情報交換をしながら、参加団体等の活動の実践を積み上げ、課題を共有していくことで、区民と協働した実践的なネットワーク活動の取組みを進めていく。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成 22 年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番 号	事 業 名	新規・継続	開始年度	所管課
- 6	中原区子育て支援推進事業	継続	平成 15 年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	中原区子育て支援推進実行委員会		対象者	区内在住の 1 歳から 3 歳までの乳幼児とその保護者	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他 ()	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	区内に住む乳幼児を育てている保護者の孤立化や、育児不安の軽減をはかり、ひいては虐待予防につながっていけるように、地域ぐるみで子育て中の保護者をサポートしていくために、区の社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会などの地域住民が主体となり、区内 18 箇所の「子育てサロン」を開催し、保護者への支援を行う。				
予算額	2,140,000 (円)	決算額	2,125,595 (円)	不用額	14,405 (円)
不用の理由					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		中原区の社協・民児協が主体となった区内 14 箇所に加え、協働事業として支援している子育てふれあい広場（自主サロン）4ヶ所を加えた 18 箇所で、月 1 回の子育てサロンを開催している。 子育てサロンの開催の他、各地区では、朝の声かけ見守り活動や、中学生のボランティア体験の受け入れや、小学校との協働活動としての「命の授業」など、地域での世代間交流を進める活動ともなっている。地域での子育て支援の活動を振り返り、その活動についてエンパワメントを高めるためのスタッフ研修会（140名参加）を開催した。		
	子育てサロンの様子		実施時期 (開催日/回数等)	月 1 回/サロン 延べ 191 回	参加 人数等

2 事業評価

評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること）
<p>子育て中の転入者や出生数の多い中原区においては、乳幼児を持つ保護者が、子育てに関する気軽な相談ができる身近に知り合いもなく、不安の解消ができていく状況にある。子育て中の親同士や、地域の人々と交流できる「子育てサロン」に参加することで、子育てに関する情報交換が出来、同じ年頃の子どもを持つ親同士のつながりが出来ることで、不安で孤独な子育ての解消の軽減を図っている。</p> <p>平成 22 年度は、東日本大震災の発生のため 3 月に 8 会場の開催を中止した影響もあり、利用者数が前年度を下回る結果となったものの、親子の地域デビューに適した場としての機能を発揮した。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	地域ごとに地域のボランティアが主体的に実施しているサロン活動が定着しており、転入してきた親子や、初めて子育てをしている保護者が集える場として有効に機能している。さらに、「こんにちは赤ちゃん訪問」等と連動して、地域の交流の場として一層の定着を図っていく。	

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 7	中原区子育て情報発信事業	継続	平成22年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所	対象者	区内の子育て中の世帯	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容		
目的及び内容	<p>出生数や子育て中の世帯の転入が多い中原区では、子どもを抱える親の孤立化を防ぎ、子育てがよりスムーズで、楽しく充実したものになるよう、子育てに関する様々な情報を合理的かつ効果的に提供する必要があります。また、子育て支援には行政だけでなく様々な主体が関わっており、関係部署・機関・団体との連携により、多種多様な情報を区民に分かり易く、できるだけタイムリーに発信する必要があります。そこで、子育て世代の家族への多様多様な情報を効果的に提供するため、“子育て情報ガイドブック”を毎年度改訂発行する。また、子どもに関する相談窓口や子育て中の親子が集える場の情報が区民に広く浸透するよう普及活動を推進する。さらに、様々な子育て支援に関わる情報の収集に取り組み、効果的に発信できるよう中原区子育て支援ホームページの充実を図る。</p>			
予算額	1,664,000(円)	決算額	1,475,092(円)	不用額 188,908(円)
不用の理由	入札により、子育てガイドブックの印刷が安価に発注できたため。			
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>作成した冊子等</p>	<p>中原区子育て情報ガイドブック「このゆびと〜まれ!」を改訂発行(7,000部)し、出生届提出時及び子育て中の世帯の転入時に配布するとともに、ガイドブックの内容を区子育て支援ホームページにも掲載した。また、地域子育て支援センターや子育てサロンなど子育て中の親子が集える場の情報をまとめた「子育てエンジョイ in なかはら」を発行(5,000部)し、新生児の全戸訪問時や転入者などに配布した。さらに、こども支援室の相談窓口や子どもに関する専門機関の連絡先を掲載した「こども相談窓口リーフレット」を発行(20,000部)し、幼稚園、保育所、小中学校等を通して配布した。</p>	実施時期 (開催日/回数等)	参加 人数等

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>出生数や子育て中の世帯の転入数が多く、また核家族の多い中原区では、子育て中の世帯へ積極的に情報提供を行い、子育てしやすい環境づくりを行うことが重要であり、多種多様な情報を分かりやすくまとめた冊子やリーフレットを通して必要な情報を届けることができた。また、出生届や転入届提出時、新生児訪問や幼稚園、保育園、小中学校での配布などの機会を捉え、多くの子育て中の家庭に情報を届けることができた。子育て中の世代の多くがインターネットを通じて情報を得ていることから、区子育て支援ホームページにも情報を掲載し、利便性の向上を図った。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	引き続き区の出生数及び転入数は伸びる見込みであり、多種多様な情報をより分かりやすく、より多くの子育て中の家庭に届けるため、事業を継続する必要がある。ホームページを通じた情報提供もより一層の充実を図っていく。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 8	中原区子どもの発達支援事業	継続	平成21年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所・NPO法人わになるう会 NPO法人教育総合活動センター		対象者	区内在住の発達に支援を必要とする幼児・児童の保護者		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	子どもの発達に何らかの課題がある保護者に対して、発達課題の理解を深めるための情報提供を行い、子どもへの対応スキルの向上を目指すと共に、保護者同士の情報交流活動を通して保護者の相互支援を推進する。また、これらの支援活動の報告と検討を行うことで、区内の子どもの発達にかかわる諸課題の把握及び子どもの発達支援活動の向上を図る。 <内容>・就園前児童、在園児、就学児童の保護者を対象とした「保護者ミーティング」の実施および講演会の開催 ・関係機関による「発達支援検討会」の開催					
予算額	1,329,000(円)	決算額	1,327,945(円)	不用額	1,055(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		新規事業として「在園児保護者ミーティング」を実施した。各々のミーティングでは保護者が抱えている不安や悩みを共有し、参加者同士の経験や専門家からの助言を通し具体的な関わり方や問題解決のヒントを得ていた。継続した参加により保護者同士が互いに支え合うつながりができた。 「発達支援検討会」では、幼保小等の学校関係者・地域療育センター・発達相談支援センターなど参加機関の取り組みや状況について意見交換を行い情報を共有した。関係機関による具体的な連携の仕方について次年度の課題となった。			
	講演会のチラシ等		実施時期 (開催日/回数等)	発達支援検討会/4回 講演会/3回 ミーティング/計36回	参加 人数等	検討会委員：21名 保護者述べ：403名

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
「在園児保護者ミーティング」を実施したことで就園前から就学までの子どもの成長に応じた保護者支援の拡充が図れた。互いに気持ちを出し合い共有することは保護者の孤立感や不安の軽減につながった。また、学校や関係機関と連携することで集団生活や家庭での状況が改善された報告もあった。保護者支援については、これまでの経過から支援の流れや実施内容が定まってきており、今後も継続していくことが求められている。 また、発達支援検討会では、今後の課題解決に向けて、参加している機関が行っている様々な支援をより効果的につなげ、具体的な取り組みとして実施していけるよう、引き続き連携の強化を図っていくことが求められている。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	子どもの成長に応じた保護者支援は今後も必要であり、保護者の気持ちに寄り添い受け止めていくことと共に、集団の中での具体的な手立てや発達課題をどう保護者に伝えるかなど、直接子どもや保護者と関わる教師や保育士、スタッフとの連携強化を図っていく。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 9	中原区子育て支援者養成事業	新規	平成22年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	社会福祉法人新生会		対象者	子育て支援に関心のある区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営	一部委託	全部委託	関連事業局	その他()	
目的及び内容	<p>現代の子育て状況や親子が置かれている現状について理解を深め、育児不安の軽減や虐待予防への啓発を促進し、子育て支援の理解を深める一般向け講座の開催。</p> <p>さらに、一般向け講座を踏まえ、具体的な子育て支援活動に参加していくために、具体的な子育ての情報や対応について理解を深めると共に、支援すること・手助けすることの姿勢や心構えを学ぶステップアップ講座を実施。</p>					
予算額	864,000(円)	決算額	863,500(円)	不用額	500(円)	
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>講座の様子</p>		<p>子育ての理解を深め、地域全体で地域の子育てを見守る体制づくりを目的に、一般区民に対して、一般向け講座(11月)を開催し、講座終了者31名。一般向け講座修了者に対して、具体的な実践者として活動することを目指して、ステップアップ講座(2月)を開催、講座終了者21名。</p>			
	実施時期 (開催日/回数等)	一般向け講座 (11/9,12,18)	ステップアップ講座 (2/16,17,22)	参加 人数等	受講者実人数 109人	

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>一般区民向け講座及びステップアップ講座は、事業者へ業務委託し実施。地域の子育て支援の必要性への意識を高める講座から、参加者の意識向上は図れたと考える。今後、区内の子育て支援事業等への協力を依頼していく等、参加者を地域子育て支援活動に結びつける働きかけの強化を図っていく必要がある。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	新たに発掘した人材が実際の子育て支援の活動に結びつくような働きかけまでには至っていない現状がある。今後は受講者が地域の具体的な子育て支援活動に結びつく働きかけを強化していく。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 10	安心子育てに向けた普及啓発事業	新規	平成22年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	NPO法人 Triple P Japan		対象者	区民、医療関係者（医師、看護師、助産師、地域連携ワーカー等、行政職員（保健分野、保育分野、教育分野）		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他（ ）	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	小児の発達支援や虐待の予防活動について研究している小児科医を講師に迎え、講演会を実施することで、関係機関職員の意識向上を図り、連携のもと児童虐待の未然防止や重症化防止を図る支援ネットワークを強化する。また、子どもの成長発達の理解を深めることにより、児童虐待の未然防止が図れるような地域づくりにつなげる。					
予算額	292,000(円)	決算額	291,124(円)	不用額	876(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		3月10日午後6時30分～午後8時に中原市民館にて、和歌山県立医科大学保健看護学部柳川俊彦教授による、「子どもの発達と虐待」～支援が必要な子どもと家族のための地域連携～をテーマに講演会を実施した。参加者は子育て支援に関わる多様な職種、地域の子育て支援者と子育て世代と幅広い対象の参加があり、児童虐待の未然防止や重症化防止を図る支援ネットワークの強化につながった。 参加者：関係機関（医師、保健師、助産師、看護師、栄養士、保育士、小学校教諭、児童養護施設職員、歯科助手、ベビーシッター、事務職、社会福祉協議会職員）地域の子育て支援者（民生委員、主任児童委員、子育てサロンボランティア、地域子育て支援センター）子育て中の区民			
	講演会の様子		実施時期 (開催日/回数等)	平成23年3月10日 / 1回	参加 人数等	約80名

2 事業評価

評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること）
児童に関する相談が複雑化、多様化している中で、児童虐待相談、通告件数は増加傾向にあり、子ども支援に関わる各機関がネットワークの強化が必要である。また、区民全体の児童虐待に関する認識を深めるなど、多様な子育て支援、虐待の早期発見、早期対応のための環境整備を図る必要がある。武蔵小杉再開発による大規模マンション完成に伴い、大幅な人口増加、特に子育て世代の転入による、子育て支援へのニーズ・対応件数が増加している。これに対し、地域の連携を目指した当講演会の実施は、区民ニーズを捉えた、緊急で積極的な事業実施として一定の成果を挙げられたと考える。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する		

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 1	区民の手で花いっぱい中原事業	継続	平成21年度	地域振興課

1 事業概要

事業実施主体	花クラブ実行委員会		対象者	区 民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()		関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	<p>公募した区民により組織された花クラブ実行委員会が、花による潤いのまちづくりのため、公用地である武蔵小杉周辺、中原図書館、中原区役所正面、中原区役所周辺、武蔵中原駅周辺の5箇所にて年2回の植栽と日々の管理作業を行う。</p> <p>また、年2回一般参加者を募集し中原区役所花壇で行う花植体験では、花植えの体験だけでなく地域企業から提供されたリサイクル肥料を渡し、家庭で環境について考えるきっかけづくりも創出している。</p>					
予算額	1,932,000(円)	決算額	1,262,372(円)	不用額	669,628(円)	
不用の理由	各委員の尽力により、植栽のための花を安価に購入することができたため。					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		<p>水遣りや花柄摘みなど日々地道な努力を行っており、植栽作業において花壇のデザイン等に工夫を凝らしており、通行する区民に安らぎと憩いの空間を提供し続けている。また、花によるまちなかのイメージ向上にもつながっている。</p> <p>平成22年度は、アシストクラブとの連携による花植体験を試行的に行い、地元で活躍する川崎フロンターレを応援するため、フロンタくんのデザインを区役所花壇に採用した。</p>			
	 <p>花植体験の当日の様子</p>		実施時期 (開催日/回数等)	通年	参加 人数等	花植体験6月 28人 11月 20人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>公募で集まった区民が、公用地に出向いて維持管理を行い、植栽作業で工夫を凝らすなどして、花による潤いのまちづくりを推進することができた。通行する区民からもまちを花で彩ることはいいことであるとの声も多くいただいております。区民に安らぎを与え憩える場所づくりが提供できている。</p> <p>また、年2回の区役所花壇の花植体験では、日頃からの維持管理作業での知識を活かし講師役を担う事により、知識のフィードバックや一般参加者との交流も深めることができ、花によるまちづくりだけでなく区民との触れ合いの機会を創出することもできている。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	今後とも、区民に安らぎと憩いの空間を提供し、まちに潤いを与え続ける植栽や花植体験などを継続的に行っていくことは大事だと考える。また、他の事業との連携を強化するとともに、花植講座等も検討し、区民の参加を促していく。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
- 2	中原区STOP! ヒートアイランド事業	継続	平成21年度	企画課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所		対象者	区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容	環境局・建設緑政局			
目的及び内容	<p>中原区はヒートアイランド現象などにより、市内でも夏季の気温が一番高い。地球温暖化防止に向けた取り組みを、広く区民に啓発し区民意識の向上を図ると共に、区民との協働を進め、地域における環境問題対策を進める。その際、普及啓発物品としてエコカップ、エコバックを作成することにより、さらなる環境への取り組み意識の向上や事業への参加促進へつなげる。</p> <p>中原区エコカフェ&環境“楽習会” 緑のカーテン事業 打ち水大作戦 環境ミーティング 環境バスツアーの実施</p>					
予算額	4,900,000(円)	決算額	4,897,887(円)	不用額	2,113(円)	
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>エコライフスタイル集 「ロージーちゃんと地球にやさしい生活」</p>		<p>「中原区エコカフェ&環境“楽習会”」: オープンカフェによる環境啓発活動。年7回実施(5~11月)</p> <p>「緑のカーテン事業」: ゴーヤーによるカーテン栽培、種の配布、ゴーヤーの試食会・相談会(4~9月)</p> <p>「打ち水大作戦」: 物品の貸出、打ち水の5会場で実施(7~8月)</p> <p>「区民環境ミーティング」: 区役所で100人ワークショップの実施(11月28日)</p> <p>「中原区環境バスツアー」: 市内の事業所の見学(8月3日)</p> <p>環境事業の集大成として、エコライフスタイル集「ロージーちゃんと地球にやさしい生活」発行</p> <p>エコカップ1,000個、エコバック1,200個作成し、配布した。残りについては引き続き普及啓発のため配布していく。</p>			
	実施時期 (開催日/回数等)	通年	参加 人数等			

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>気軽に環境問題を考えるきっかけとして、「中原区エコカフェ&環境“楽習会”」を企画・実施し、累計2,400名の参加者があり、多くの区民に環境について考えるきっかけづくりができた。「緑のカーテン事業」では、“みんなで広げようゴーヤーの輪”キャンペーンを実施し、394名の区民参加があり、着実に緑のカーテンの普及に貢献した。</p> <p>また、区民100人が参加し行った環境ミーティングでは、一人ひとりが行っている環境対策について話し合いを行い、環境イベントで回収したアンケートを利用し、環境啓発活動の成果としてエコライフスタイル集「ロージーちゃんと地球にやさしい生活」を制作、配布した。エコカップ、エコバックについては平成23年度中に残りを配布する予定である。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	より多くの区民が参加しやすいような、仕組みづくり、場の提供などを検討の上、継続して実施する。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

--